

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132-1		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村報告日	平成30年3月24日

※事業所の基本

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入所者様に家族のように接しながらも、皆さまの自尊心を傷つけないように言葉づかいや態度に注意し、安心して気持ちよく過ごせるよう心がけ、御家族の希望にも添えるよう各利用者様に取り組んでいます。今出来ている事が維持・向上出来るような、個別機能訓練や日常生活リハビリの実施により、毎日が充実して過ごせるよう支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>雄大な阿蘇に囲まれ、関連施設と隣接した事業所で、これまでの生活を大切にしたい毎日の生活が営まれている。法人の「今を大切にそして未来を大切に」の考えのもと、寄り添いを大切にしたいケアが行われている。開設以来「車椅子に頼り切らない」ケアが続けられており、経ち座りや手引き歩行を大事にしたケアが続けられている。訪問時にはペダル漕ぎや階段昇降で身体を動かす入居者の姿も見られた。また生活の中での食事でも大切にされており、入居者の調理への携わりが難しくなってきたものの、日々の味・匂い・季節の関わり、食事時間の職員とのコミュニケーションで大きな役割を担っている。自由で安全な生活が今後も続く様な取り組みに今後も期待しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境での共同生活の中で、利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう実践にている。	入居者がその人らしく生活が送れるようにと考えられた理念について職員会議で毎回振り返りを行っている。日々のケアの基になる介護計画の作成の際には、計画作成者は理念・方針を念頭に作成しており、事業所全体の基礎となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	中高生の福祉体験学習の受け入れや、湧水トンネルでの催しの、七夕飾りやクリスマスツリー作成の参加。施設内の催しに地域の方を招待し交流している。	開設時より地域との関係作りに力を入れている。特に地域婦人会(フレッシュミズ)の農閑期のボランティア訪問、町の各種イベントへの参加等、継続した交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験学習の受け入れを実施し、認知症への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を実施し、施設での取り組み状況を報告。皆さまからの意見を頂き、今後更なるサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では地域・役場・入居者家族と共に職員も参加し、意見交換が行われている。事業所では地域行事の情報を得、また地域と行政を繋ぎ、相互の情報交換を行うことで、入居者を共に支える関係作りの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括・町社会福祉協議会・役場と日頃より連携を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政とは日頃から協力関係作りに努めている。一昨年の熊本地震以降、更に連携体制が強くなり、町の緊急対応時の備品、備蓄等、相互の協力関係が継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月実施している全体研修会議の中で、具体的な事例を上げ、職員全員が理解出来るよう話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃のケアや会議時には身体拘束やプライバシーに関して議題に取り上げ、振り返る機会を持つことで職員の理解と徹底を図っている。退院後等、車椅子を使う必要がある場合にも家族との話し合いを重ね、一つ一つの事柄を安易に進めることをせず、意見を出し合いながら進めている。	食事時の車椅子から椅子への移乗等、場面場面の行動の規制は見られませんでした。入居者の身体能力の低下防止のためにも拘束のないケアを是非継続してください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月実施している全体研修会議の中で、虐待についての内容を取り上げ学習し、日々のケア全てにおいて注意を促し、虐待防止に努めている。		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修に参加し、参加者は学んだ内容を他の職員へ伝え、自分たちの役割を再認識し、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営者自らが、利用者や家族と対面する時間を作り、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得をされた上で、契約の締結・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見・要望があった際には、運営者自らが対応し、内容を全職員・関係者へ報告し、運営に反映させている。	家族の面会は多く、来訪時には入居者の状況を伝える等で日頃の関係作りを行っている。代表や法人関係者と話すことで、親しみや安心を得られる家族の姿もあり、法人全体で家族からの意見を出しやすい雰囲気作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している全体研修会議や、毎日の業務終了後の報告会議を通じて、職員一人ひとりの意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議で職員の要望・意見を聴く機会を設けており、日頃からホーム長と職員間の関わりが多い。また代表も日に数回事業所を訪れたり、職員の意見交換の場を提供する等、意見を出しやすい体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に管理者や職員の事を気にかけて、いつでも相談出来るような環境を作っており、勤務状況も把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に応じた内容の研修への参加機会を確保し、ケアの向上を図るためのトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会の参加の機会を作り、内部の研修会に講師を招き勉強会を開き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への聞き取り等により、困っている事・不安な事・要望等を把握し、解消し安心できるよう支援を行い。信頼できる関係づくりに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・不安な事・要望を把握し、解消に繋がるように支援を行い、遠慮なく相談できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の聞き取り等から、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見や要望を尊重し、お互いが同等の立場で生活できるように努め、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の受診・往診・最近の様子等、家族の面会時や電話で報告し、状態を共有する事で、共に本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば一緒に出かけたり、地元での行事や催しの参加への支援に努めている。	地域の園児・小学生の訪問や地域行事・祭りへの参加等訪問は継続して行われている。近隣店舗へ散歩を兼ねた買い物も日常的に見られ、入居後の「生活」になっている。家族・友人の面会もよく見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格やお互いの相性等を把握し、気の合う方と隣席を設け交流できるよう支援に努めている。		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、関わった関係性を大切に、施設外で会った際には声を掛け、現在の状況など確認し、相談事があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の心身の状況を毎日の生活の様子や、会話の中から読み取り把握し、モニタリングで共有している。	職員は入居者との寄り添いを大切に、日中もよく会話が見られる。入居者がリビングで過ごす際には特に職員も傍で時間を共にし、不安にならない様、また気持ちを汲み取る様にしている。入居者の意向、家族の意見は介護計画へも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの暮らしを把握し、支援方法の検討を行い、一人ひとりが馴染みやすい環境を作るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの今までの暮らし方や、心身状態等は関わる職員全員が把握し、快適に過ごして頂くための支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、主治医の意見、各関係者の意見を取り入れ、職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	過去の経歴により、今までの生活を変えない計画作りを基本としている。毎月全職員参加でモニタリングを行い、担当者から説明後、全職員で意見を出し合う。担当者を中心として作成した介護計画は基本的に半年毎に見直しを行い、状況の変化時には随時見直しを行っている。	介護計画で「趣味・楽しみ・特技」を把握し、これまでの生活の楽しみの継続に力を入れている様子が見られました。入居者それぞれの好みや趣味等を続けることができる支援の継続に期待しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った個別の記録用紙に一日の様子を記録し、毎月のモニタリングで情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化に応じて、今必要とするサービスを職員間で話し合い検討し、一人ひとりに適した支援が出来るよう取り組んでいる。		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の催しやお祭り、千本桜のお花見へ野外ケアとして出掛け季節感を味わい、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の医療機関を主治医とし、受診・往診時に利用者の細かい変化も報告し、指示を頂き対応しています。	家族の意向を第一に入居前からの医療機関を継続して受診できる様支援しているが、現在、往診体制が整う協力医(3医院)からの選択がほとんどである。通院が必要な場合は職員が介助を行い、必要に応じ家族の付き添いも見られる。	月1~2回の定期往診、訪問歯科、訪問看護等、訪問医療が充実しています。通院は基本的に職員対応の様ですが、家族の高齢化により難しい状況ですが、情報・状況共有のためにも、家族へのさり気ない協力依頼の継続に期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の細かい変化や異常に気付くように努め、異常があった際には早急に看護職へ報告・相談し、受診の必要性等の指示を貰い、病気の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際には、医療機関へ出向くか電話で、看護師や相談員、理学療法士等と情報交換しながら、関係作りを行っている。代表者自ら、病院へ出向き、早期に退院出来るよう相談される事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人や家族の希望を確認し、事業所で出来る事を十分説明し、納得して頂いた上で、医療機関の指示・協力と共に支援に取り組んでいる。	開所以来、入居者と家族の希望があれば看取りまでの対応を行い、往診・訪問看護の利用で医師・家族・事業所と相談を重ねながら共に支援する体制が出来ている。「病院ではない看取りケア」として、「家族の心のゆれも支援する」ケアに向け取り組みを始めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の全体研修会議で事例を上げ、看護職員からの指導を受け、全職員が応急手当や初期対応出来るように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署の指導の元で、火災訓練や避難訓練を実施し、全職員が消火活動や避難誘導出来るようにしている。	定期的な消防訓練では各事業所での訓練の後、法人全体で放水訓練を行う等、実践的な訓練を行っている。一昨年の熊本地震以降、自然災害への訓練や非常食についても勉強会を行い、また行政との協力体制も継続している。	熊本地震後は子ども室を準備し家族連れの勤務を受け入れたりと、法人全体で災害に取り組む様子が窺えました。いつ起こるか分からない自然災害に向け、対策の継続を行ってください。

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を否定せず、常に相手の気持ちになり、不愉快な気持ちにならないよう、言葉を選び対応している。	個人の尊重は法人の介護の基本の一つに掲げられており、マニュアルに則り、職員間で徹底されている。気になることがあれば、職員同士で注意し合い、都度話し合いを持つ体制が整っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が無理なく生活出来るよう工夫する中で、職員に希望を表す事が出来る関係を築き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせ、その日の過ごし方を検討し、希望も取り入れながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容にはいつも注意し支援している。家族がいつ来苑されても納得されるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	沢山の食材を使用し栄養バランスの摂れた食事を提供。出来る方には食器の片付けを手伝って頂き、家庭的な時間を過ごしている。	昼夜の食事作りには調理師が配置されている。調理師も入居者とよく関わりがあり、また同じ食事を入居者と共にとることで会話の中から好みや量の把握も行っている。入居者の好みを考え職員が出し合ったメニューから栄養士が献立を組み立てている。	車椅子利用者も椅子へ移乗し、「車椅子に頼らない」生活の支援が浸透していました。今後難しい状況を迎えるかもしれませんが、継続した支援に期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に合わせた食事形態で提供し、水分量は個人に必要とされる分量を把握し提供している。水分制限のある方は、摂取量を表に記録して、一日の水分摂取量を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、本人の出来ない所は支援している。必要に応じて、歯科医の往診により口腔メンテナンスを受けている。		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄の時間を記録し、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄ができるように支援している。	入居者一人ひとりの記録や体調・しぐさから声掛けを行い、日中は出来るだけトイレでの排泄に向け支援している。夜間はそれぞれの状況に応じて、安易にオムツを使用することなく、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医より、下剤の処方もありますが、自然な排便が出来るよう、牛乳を提供したり、適度な運動を促し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状態の良い日に入浴を促し、本人の希望する時間に入浴の支援をしている。	週2～3回午後を基本とし、入居者の予定や希望を考慮した支援を行っており、入浴がない日にも清潔保持に努めている。重度化し機械浴が必要になった場合は、隣接の事業所を利用する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り規則正しい生活を促し、日中は体操等で身体を動かし、休息や夜の睡眠が気持ちよくできるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報にて一人ひとりの薬を確認し、副作用・用法・用量を理解し、正しい服薬の支援をしている。小さな変化も見逃さず主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前からの趣味を把握し、一人ひとりに合った手作業等をして貰ったり、職員と一緒に洗濯物たたみや食事の準備・後片付けを行っている。天気の良い日には、外苑の散歩に同行し気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者希望にそって買い物や、行きつけの美容室・理髪店などに行き、外出支援している。近隣の飲食店へ行き、本人が好きな物を注文しおやつを食べ、いつもと違う茶話会の時間を楽しんで頂く事もある。	毎月の外出計画で花見や果物収穫、ドライブも予定されている。天気が良い日には散歩を兼ね近隣店舗への買い物等、出来るだけ外気を感じる工夫を行っている。甘味屋に隣接しており、おやつを楽しむこともある。	高齢化が進み、日常的な外出の機会が減ってきているようです。季節の風を感じることも刺激になりますので、日常的な外出への工夫に期待します。

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用目的を確認した上で、希望される金額をお渡しし、職員同行で買い物へ出かけたリ、用途に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主介護者の許可を頂いたうえで、希望される相手へ電話を掛ける支援をし、難聴等で会話が困難な利用者が希望された際には、職員が代弁し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には出来るだけ物を置かず、安全に過ごせるよう配慮し、壁には利用者と共に作成した季節に合わせた作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	明るい室内は温湿度に配慮されている。窓からはどこからも阿蘇の山々が見え、庭には季節の木や花が楽しめる。毎月の季節を考えた飾り作りには入居者も参加し、時間をかけた大きな思い入れのある作品は、入居者の希望により長期間楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、馴染みの方と交流できるように席を配置し、共有空間の両サイドには誰でも自由に使用できるソファを置き、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の意見を取り入れ、使い慣れた物を持ち込んで頂き、家具の配置も安全に過ごせるよう工夫し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	広々とした居室には入居前からの生活用品が持ち込まれ、好みの品物が置かれている。隣接デイサービスを利用する入居者の配偶者のため、居室に追加でベッドを置くケースもみられ、入居者の生活全般を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を、いつまでも活かせるように、不足部分を補う支援を心がけ、安全に生活出来るよう見守りながら生活して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽(西乃家)		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132-1		
自己評価作成日	H29.12.25	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	H30.2.18

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が安心して暮らせ、居心地良く過ごせるように心がけて支援しています。御家族とはいつでも面会でき、希望があれば宿泊等も行っていきます。病気の際の受診・往診の付き添い・介助も行っていきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個人を尊重し、その為の選択の機会と自由を提供している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉体験学習などで、地域の中学生・高校生の実習を受け入れている。また、高森湧水トンネルへの七夕・クリスマス展示物の作成、展示を行い、地域イベントへ参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験学習・福祉体験学習、JA婦人会の訪問などを通して、認知症の理解を促している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、事業所の取り組みを報告するほか、各方面からの意見や評価を受けて、反省や話し合いを行い、サービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の町民福祉課や社協などと連絡を取り合い、協力関係も出来ている。町の緊急対応品備蓄の協力もしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修会議において、身体拘束について取り上げ知識の普及に努めている。また、夜間に安全のため施錠する以外は施錠を行わず、自由に出入りできるようにしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会議や資料の回覧などによって具体的な高齢者虐待の内容を把握し、職員一人一人が注意しながら毎日のケアを行う事で、虐待の防止に努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会議や外部の研修会への参加などによって知識を得ると共に、必要と思われる利用者には積極的に利用を勧め、関係者とよく話し合い検討したうえで活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事については、利用者や家族に同席してもらったうえで、責任者である施設長自らが良く話を聞きながら十分な説明を行い、理解や納得を得られる様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回運営推進会議を行い、家族代表や役場職員、地域代表の方々に出席してもらい、意見や要望を聞いたうえで、それらを運営に活かすよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼やホーム長会議、毎月1回の全体研修会議の際に職員の意見や提案を取り上げて集約し、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場を目指して、来年度から人事考課制度を導入する事にしており、数名の職員代表者からなる会議において、評価の行い方や内容等を検討中である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回テーマを決めて全体研修会議を行い全職員の知識や能力の向上に努めるほか、各職員に見合ったスキルを身につけられるよう、外部の研修会へ派遣し、参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加した際に同業者と話す機会があるが、それ以外はほとんどない。今後交流の機会を増やしていく必要がある		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得ていた情報を頭に入れ、本人に合わせた声掛けや話しかけを行って、馴染みの関係を作る事で安心感を持ってもらい、困っている事や不安・要望などについての本人の話聞き出す様にしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や思いを的確にキャッチできる様、会話を多く持ち、いつでも連絡が取りあえるようにしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な情報を本人や家族、関係機関より収集し、それに基づいて介護計画をたてる事で、本人や家族がその時に必要としているニーズにあったサービスを展開する様にしている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り利用者と共に食事をとり、談話をしたりテレビを見たり、リハビリやレク等の作業を一緒に行う事で、一人一人の生活に寄り添った関係を作る様にしている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に関わる情報を小まめに家族に伝えて、現在の状態を説明、納得してもらい、家族に理解してもらったうえで、利用者との関わりを持ってもらう様にしている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿っていつでも行きたい場所に行けるような体制を取っており、連絡したい人がいれば施設の電話を使って話ができるようにしている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が出来るような場面のセッティングや声掛けにより、お互いに気兼ねなく生活できる雰囲気作りを気配っている			

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町で本人や家族に出会った時は積極的に声掛けをし、困った時にはいつでも相談する様に伝え、関係を維持していくと共に、再度の支援にもつなげられる様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話可能な利用者については、日頃の会話や訴えから本人の思いや希望を把握し、意思疎通が困難な利用者については、これまでの生活歴や好み、わずかな表情や動きから本人の思いを汲み取るよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての利用者において、介護記録のファイルに本人の生活歴や環境等が記載された利用者情報をファイリングすると共に、不明な点は本人や家族から聞き取りをし、情報を把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の過ごし方や行動、訴えなどを細かに記録すると共に、介護計画の作成・更新時や、大きな変化があった時には、担当職員がアセスメントを作成し、常に現状を詳しく把握できる様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向をよく把握し、考慮したうえで介護計画を作成すると共に、月1回のモニタリングで提案された意見やアイデアがあればそれを加え、常に現状に即したものになる様にしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の下方には介護計画の各項目を記載し、達成度や出来なかった理由を記入する様にし、モニタリング時にはそれをもとにした話し合いを行って、情報を共有すると共に、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「今はこうだからできない」ではなく「どうすれば出来るようになるか」という視点でとらえる事により、より柔軟に本人や家族のニーズに対応できるように努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がそれまで利用していた店や施設、病院等を把握し、可能な限りそれらを継続して利用し、生き活きとした生活ができる様努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の希望により決め、体調不良や本人・家族の希望があった場合には受診している。また、病院と良好な関係を築くことで、定期的に往診してもらい、利用者の負担を減らしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はほとんど看護師が常駐しており、必要と思われる場合には連絡・相談をする事により、受診の指示や看護を受けて適切な対応が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、担当部所の責任者が定期的に面会に行き、看護師や医師と関係づくりを行うほか、情報のやり取りを行っている。また、病院の地域連携室とも連絡を取り、タイムリーな情報を得られる様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に入った場合は、本人や家族と話し合って意向を把握すると共に、施設で出来る事を説明・理解してもらい、医師と家族の話し合いもしてもらったうえで方針を決め、関係機関と連携して支援をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修会議で、急変や事故発生時の手当てや対応の知識の獲得と訓練を行っているほか、緊急時には対応マニュアルに沿って対応できるようにシュミレーションを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全体研修会議で天災時の避難マップを作成、避難誘導のシュミレーションや備えについての話し合いをしたほか、年2回は防災消防訓練を行い、消防署の指導を受けながら避難誘導や消火の訓練をしている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	H29年の目標として、「丁寧な話し掛けを心掛ける」を上げ、馴れ馴れしい言葉づかいをしない様に、職員同士で注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをしてもらうときにはまず、本人にどうしたいかを聞き、思いや希望を把握し、自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に出来る事を見つけて本人にあった事をしてもらうと共に、本人が嫌と言われた事は無理にしない様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝きちんと身だしなみを整えてもらえるように洗顔用のタオルや櫛を準備するほか、本人の希望に沿って散髪や買い物の支援をし、おしゃれを楽しめるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、どうしても食べれない物は代替品を提供している。なるべく本人の好きなものを食べてもらうために、お茶も本人の好むものを提供し、希望があれば好きなお菓子等を購入して提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握、記録すると共に、必要な利用者には水分強化をしたり、栄養補助食品を提供したり、規定の時間以外にも水分を提供する事で、バランスよく必要な水分や栄養がとれるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし全利用者に口腔ケアを実施している。歯ブラシに拒否がある方には指ブラシを使ったり、うがいが出来ない方にはガーゼで口腔内の拭き取りを行ったり、本人の状態に合わせたケアをしている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録する事で、利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導して可能な限りトイレで排泄できるようにしている。また段階的にオムツの種類を選び、状態に合ったものを使用できるようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が便秘予防のための知識を身につける様に努め、牛乳の提供や運動の声掛け、腹部のマッサージ等を行っている。また、かかりつけ医と連携する事で下剤を上手に利用し、排便のコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定は基本型で実施する様にしている。体調や気分に合わせて、入浴できなかった場合は次の日に実施するなど、長期間にわたり入浴できない状態がない様にしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録や申し送りで職員間の情報交換を行い、利用者の休息や睡眠パターンを把握・共有している。また部屋を整頓し、寝具を定期的に洗濯したり干したりして、気持ちの良い睡眠がとれるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報はファイリングし、いつでも見れる様にしている。また看護師や薬局・医師との連携に努め、処方薬の変更があれば記録や申し送りを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話や家族からの情報から、好物や趣味を把握し、好きなものを食べたり好む事を出来るように支援している。またそれまでの生活歴を考慮し生活リハビリとして、その人が出来る役割をしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩等声掛けを行い、本人の希望がある場合には実施している。また、普段行けない場所についても、家族の希望や協力がある場合には、職員の支援にて出かけられるような体制がとれている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力を考慮したうえで可能な利用者には、規定額内でお金を所持して貰っている。金庫で管理している預かり金も本人や家族の意向により使用し、明細は毎月キーパーソンに送付し明確にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話したいとの希望があれば、施設の電話にてかけてもらっている。利用者あての電話や手紙は既定の手順にて取り次いでいる。読み書きができない利用者には代読代筆を行い交流支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の照明や温度は職員が管理し、不快なおいなどもない様換気を行い、快適に過ごせるようにしている。また、季節の花を飾ったり、壁に装飾をしたりして、季節感を出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である居間のソファや食堂の椅子は、利用者がいつでも自由に座れるようになっており、一人で新聞を読んだり、何人かで談話をしたりして、本人の思いのまま過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には本人や家族の希望に沿って、自宅で使っていたものや好みの物など、好きなものを持ち込んでもらっており、自分の家と変わりなく過ごせるように雰囲気作りをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーであり、廊下やトイレ、浴室などには手すりを設置している。また廊下や食堂も安全に離合できる様、十分な広さを取っており、安全に自由に行動できるようにしている		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあそ和楽

作成日 平成30年 3月18日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	移動手段が車イスの利用者様が半数を超えている為、外出時に支援する職員が沢山居ないと難しい	四季折々のお花見に出かける事で、身体で季節を感じて頂き気分転換を図る	全利用者様を一度に外出は難しいので、数日間掛けて少人数ずつの安全な外出を計画する	3ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。